

伊那市官民共創の新しいまちづくり協議会

対話・つながり・実現の場

## 第7回 開催報告

「まちなか作戦会議『やりたい』を実現するために」

2025.11.30

---

# 開催報告

## テーマ

まちなか作戦会議「やりたい」を実現するために

## 開催概要

- 日時 : 2025年11月30日（日）13:30-16:10
- 開催場所 : 伊那市役所 5F 501会議室
- 参加者 : 約30人（一般参加：約17人、協議会メンバー、市職員、関係者：13人）

## プログラム

3つの「問い合わせ」として「作戦会議」をおこなう。

- ・「歩きたくなるまちってどんなまち？」
- ・「情報が集まる場所・方法は？」
- ・「次世代のまちづくりへの関わりって？」

### 1. グループワークその1

（「問い合わせ」をきっかけに、具体的な取組や提案のアイデアを出す）

### 2. グループワークその2

（アイデアを実現するための計画を作成、話を聞いてみたい講師を挙げる）

### 3. グループワークその3

（計画をブラッシュアップしてグループごとにまとめる）

### 4. 各グループの発表・ラップアップ

# 歩きたくなるまちってどんなまち？ 対話・ワークシートまとめ

1 歩いていて楽しかった、わくわくしたまち（場所）は？	2 そのまち（場所）の何にわくわくした？
伊那の裏通り	登下校する児童、身近に暮らしを感じる、静かで安心できる
閉店した花紋の辺り	アマゴが釣れる川があつたり、仙丈ヶ岳がきれいに見える
下諏訪町御田町商店街 旧矢崎商店	リノベーションした商店街
佐久市夢佐久通り	道路脇の木がライトアップされており、夜見に行って綺麗だった
小布施町	簡単に全体像がつかめない 個人の庭を一般開放するオープンガーデンがある
山梨県韮崎市	アメリカヤ周辺のリノベ街
群馬県前橋市	アーバンデザイン、川と歩道、キッチンカー
群馬県嬬恋村	美しかった、歩く人ファーストな環境
東京都目黒区や世田谷区の住宅街	静か、暮らし、café…混在（建築・庭）
東京都品川区戸越銀座商店街	ごちゃごちゃした静かな活気、銭湯、つまみを買い酒を飲みながら歩ける
東京都千代田区丸の内	きれいなまちなか
茨城県つくば市	ペデストリアンデッキ、駅↔大学の自転車専用道路、街路樹があり景観がよい
滋賀県近江八幡市たねや	和菓子で人を引き付ける 賑わっていてまた来たくなる
大阪市梅田うめきた公園の歩道	日本酒のイベントをしていた 歩車分離されゆったりと歩いたり飲食したり
広島市広島駅と商店街	活気、新しい整備、駅2階に電車が乗り入れており、市電で商店街へ行ける
北海道小樽市	意外性がある、驚きがある

# 歩きたくなるまちってどんなまち？ 対話・ワークシートまとめ

## 1 歩いていて楽しかった、わくわくしたまち（場所）は？

## 2 そのまち（場所）の何にわくわくした？

九份（台湾）

千と千尋の神隠しのモデル

ボンドストリート（ロンドン）

高級店

サンタモニカのダウンタウン  
(口サンゼルス)

歩行者だけ、散策、露店

タイバンコクの路上マーケット

買物、食べ歩き、賑わい、人の暮らし

## 3 歩きたくなるまちの要素ってなに？

- ・古さもしくは新しさ、今と違う、自分の日常と違う
- ・車が無いこと
- ・キレイな川があること
- ・夜のライトアップ
- ・静かで落ち着いている
- ・安心できる
- ・賑わっている
- ・開かれている
- ・いろいろな商店があること
- ・中心になる店があること
- ・おもしろいものがある
- ・道が壊れていない
- ・道が平ら
- ・景観がよい
- ・非日常感がある雰囲気
- ・モノやコトが変わり続け、それが可視化されている
- ・ゆっくり歩ける
- ・適度な緑がある
- ・座れる場所
- ・歩車分離
- ・落ち着き
- ・安全
- ・景観
- ・暮らしがある
- ・意外性
- ・奥行き
- ・多様性
- ・魅力のあるお店
- ・南アルプスむらのクロワッサン

## 4 その要素をつくるために伊那でできる取組や提案は？

- ・高級は難しい、古さと静かな賑わい
- ・庭を広く
- ・ライトアップ
- ・歩行者専用道路
- ・まち歩きマップ
- ・道路を定期的に歩行者天国
- ・市民文化財登録
- ・ニシザワ跡地
- ・公園
- ・歩道の整備、拡幅
- ・街路樹
- ・夜間街灯の整備
- ・変えすぎずに今の景観を活かす
- ・定期的なイベント（年イチではない日常的な）
- ・インフラ
- ・車両の通行がない
- ・安全性の向上
- ・幹線道路の歩行者の分離
- ・憩える場所の用意
- ・通り町を週末だけ歩行者道路に
- ・山寺、西町の裏通りを居住者、配送車以外進入禁止
- ・道路使用主体を半官半民に
- ・残すべき建物の指定
- ・住宅の整備
- ・「来て歩く」の前に「歩いて暮らす」

## &lt;伊那でできる取組や提案&gt;

- ・県道の南箕輪沢渡線を週末の決まった時間に閉めきり「歩行者天国」にしてはどうか。そのために道路使用許可を簡便にして欲しい。
- ・歩行者天国について、民間で儲かるような運営主体を見つけられれば持続的となる。
- ・歩行者の安心を確保する。
- ・車を閉め出すために、路面をカラー舗装、ハンプなどの物理的デバイスを設置する。
- ・商店街もシャッターを閉めずにシースルーにしたり、住宅のコンクリート塀も生垣にしたりすると景観がよい。
- ・割烹だるまなどの残したい建物を「伊那まち建築市民登録有形文化財」として勝手に認定してはどうか。
- ・ニシザワの空き店舗など、空き地を公園化すれば税を免除をするなどの施策で公園化を誘導してはどうか。

# 歩きたくなるまちってどんなまち？ ラップアップ記録

- ・歩きたくなるまちの要素として、単に賑やかというだけでなく、落ち着きや静かさといった安心できる要素や、水、木、光、ライトアップといった要素が挙げられた。
- ・具体的に取り組むとすれば、道路管理者の関係から市道がよい。
- ・通り町の両側にある裏通りは、結構車通りがあり安心して歩ける状況ではない。
- ・裏通りにハンプやカラー舗装、緑地帯などを設けてウォーカブルにする。これは早速来年度からでも計画していくのではないか。
- ・通り町を定期的に歩行者天国にする。路線バスや警察などハードルが高いかもしれないが、そもそも「ウォーカブルなまちがよい」というのであれば、車を中心としたルールに合わせて歩行者天国はできませんと制限されるのはおかしい。
- ・定期的に歩行者天国を実施することで、公園も含めた管理運営主体を作っていくことが必要ではないか。
- ・イベントごとに各行政に許可申請をするのではなく、道路や公園をひっくるめて管理運営するコンソーシアムを作り、コンソーシアムが管理運営を請け負ってよりよい活用方法を提示していくといった形ができればよい。
- ・同じ「まちなか」でも地域ごとに今までの経過が違うので、管理運営主体は地区ごとにあったほうがよい。

## <話を聴いてみたい講師>

お名前	所属	備考
飯石藍さん	公共R不動産（遊休化した公共施設や講演の活用をマッチング）	コーディネーター、2018年に「セントラルパークから明日のいなまちの暮らしを考えよう」というイベントで講演いただいている
三浦丈典さん	設計事務所スターパイロット代表	建築家、2018年に「セントラルパークから明日のいなまちの暮らしを考えよう」というイベントで講演いただいている
倉田直道名誉教授	工学院大学	専門領域：都市デザイン、都市計画、まちづくり、建築 数か月前に箕輪町でまちづくりの講演をされている

# 情報が集まる場所・方法は？ ワークシートまとめ

## 1 知りたいことがある時、知ってほしいことがある時、どこでどんな方法をとる？

### (1) 知りたいこと

- ・図書館 ・いなっせ ・よく行く飲食店 ・まちなかの各店 ・e-10 ・公共交通のダイヤ表 ・新聞 ・市報
- ・知人に聞く ・本 ・研修会 ・講演会 ・イベント ・ネット検索 ・LINEグループ ・インターネット（SNS、マップ） ・歩いて自分が見つける ・商工会議所、青年会議所などの様々な集い、定例会

### (2) 知ってほしいこと

- ・SNS ・チラシ ・インターネット ・口頭 ・LINEグループ ・Facebook ・知人に話す（その情報を知ったら喜びそうな人）

## 2 知りたいことが知れる場所や方法、知ってほしいことが知ってもらえる場所や方法に必要な要素ってなに？

- ・LINEグループのようなインターネットとリアルの融合
- ・共通の話題に興味がある人が集まる。
- ・その情報を知りたい人
- ・コンビニ

## 3 その要素をつくるために伊那ができる取組や提案は？

- ・伊那に関する情報を収集するホームページ
- ・駅の待合室への掲示
- ・観光案内所を駅に設置
- ・まちづくりが浸透している近くの市町村の視察
- ・情報誌の置き場所を再考する。
- ・スキルリスト
- ・掲げ物を掲げたい人が集まる。
- ・バスに乗ると情報がもらえる。

## 情報が集まる場所・方法は？ 対話の記録

### <伊那市の現状>

- ・駅に観光案内所がないのは伊那市だけではないか。
- ・上伊那地域は、観光で地域に落ちる客単価が極端に低いと聞く。
- ・高校生は「伊那市は居心地がよいから観光地でなくてよい」と思っている。
- ・伊那市はカフェが少ない。
- ・伊那小のママがやっているLINEグループに120人～130人登録しており、そのLINEグループが一番情報量が多い。  
「明日何かイベントない？」とメッセージを入れると誰かが返事をくれる。
- ・目的地をネットやe-10などで見つけて、目的地で目的を果たすと帰ってきてしまう。目的地から広がることがない。
- ・Google検索をしても伊那市のイベント情報は出てこない。公民館でやっているイベントは回覧板でしか手に入らない。
- ・終了したイベントの情報が市報に載ったりする。興味のあるイベントの情報は、イベントの3日前に手に入れたい。  
1か月前に情報を手に入れても埋もれてしまう。

### <ほしい情報>

- ・伊那市には面白くておしゃれなイベントが多いのに地元の人しか知らないことがある。呑み歩きイベントもその場に行って初めて知った。
- ・（大学生）地域のルール（暗黙の…も含め）を知りたい。地域の草刈りにも参加してみたい。
- ・（大学生）長期休みのアルバイト情報がほしい。
- ・お惣菜をたくさん作ったのでみんなでシェアする！みたいな情報もあるとよい。
- ・旬の野菜のおいしい食べ方を教えてほしい。
- ・子供のイベント情報がほしい。子供に魅力的な大人と出会ってほしいと思っている。そういう情報がコンビニにあるとよい、公民館より行きやすい。あとはLINEグループから情報を手に入れたい。
- ・移住者に対して家探しや、つながりたい人の情報がない。

## 情報が集まる場所・方法は？ 対話の記録

### <ほしい拠点>

- ・人がつながり、情報が集まる場所・拠点があったとしたら人は集まるかもしれない。
- ・農業や林業は、次の世代がないとか、地区外の人が入りにくい雰囲気がある。すまいテラスいなのような施設で農業、林業をやりたい人が出会えるとよい。インターネット上にあればよいだけの情報もあるが、マッチングのようなことは仲介してくれる人がいる安心感が必要。
- ・塩尻市のスナバでは高校生が議論できる場（エヌイチ道場）もある。木曽地域からも高校生が来ているらしい。高校生は大人と話したがっている。
- ・商工会議所の会議も地域経済の話など情報共有できる。ただ飲んでいるだけではない。

### <やりたいこと>

- ・（大学の先生）農業の知識を学生に教えて完結してしまっている。学生以外の一般の人にも伝えたい。
- ・自分の持っている知識が財産になることもある。そういう知識を共有できたらよい。
- ・揚げ物を一人でやると匂いとかも大変なので、みんなで揚げ物しようみたいな集まりをやりたい。
- ・17とりどり祭りのような歩行者天国を定期的に実施すればよい。定期的に実施することで自分も参加してみたい人が集まってきたり、そこで情報発信もできる。
- ・伊那市に特化したHPを作って全部インターネットに公開してほしい。一般市民も情報を載せられたり、アルバイト情報もあったりするサイト。とかく市が絡むと商業目的のイベントは載せられないとか規制があるが、そういうことを取り扱って公序良俗に反しなければ後は閲覧する人が取捨選択すればよい。

### <伊那市の目指す方向性>

- ・県庁所在地レベルの都市の駅前は賑わっているが、その規模でない自治体は駅前の賑わいというのをあきらめるのも手かもしれない。
- ・駐車場は必要であるが、ハコモノは慎重に考えた方がよい。
- ・今までまちなかは、地域の顔として商店街が賑わうような活性化をしないといけないイメージであった。今は必ずしも商業・経済に裏打ちされない活性化でもよいのではないか。
- ・まちなかは商業や経済だけでなく、情報や人が集まることに価値があるのではないか。

## 情報が集まる場所・方法は？ ラップアップ記録

- ・グループワークの冒頭、「これまで『まちなか』の価値は商業・経済中心であったが、情報が集まる場所があり、そこに入人が集まることによって『まちなか』としての価値が高まるのではないか」という話をした。
- ・知りたい情報としては、子供のイベント情報、中尾歌舞伎、お祭り、観光、移住者目線での地域の情報・ルールなど様々なものが挙がった。
- ・例えば子供のイベント情報について、100人以上が参加するLINEグループで盛んに情報をやり取りしている例もある。
- ・「誰もが情報を発信でき、情報を手に入れられる場所」があるとよい。
- ・「誰もが情報を発信でき、情報を手に入れられる場所」は、目的に応じて今すぐ調べたいときはバーチャルがよいし、例えば農地を持っている人と農業をやりたい移住者のマッチングのような話であれば、安心してやり取りができるリアル拠点がよい。
- ・まちなかに「誰もが情報を発信でき、情報を手に入れられる場所」があることにより、単に「まちなか」に人を集めて活性化するだけではない、市民生活の地域課題解決や、観光等による地域活性化につながるのではないか。

＜話を聴いてみたい講師＞

どんな方？

「誰もが情報を発信でき、情報を手に入れられる」プラットフォームに本気で取り組んでいる方

塩尻市の「スナバ」でプログラムに取り組んでいる方

# 次世代のまちづくりへの関わりって？ ワークシートまとめ

## 1 仕事以外のイベント（ボランティア、サークル活動、お祭りなど）に参加した時の動機は？

- ・好きなことだったから（部活動）
- ・次の仕事につながると思ったから（プロボノの講演会）
- ・外で活動したいと思ったから
- ・リフレッシュ（清掃活動）
- ・面白そうだから
- ・子供のため
- ・20代で地域の中に入ることで、地元の活性化の新しい風になれればと思って
- ・学びとして
- ・これからを担っていく同世代を巻き込めるようになりたい。
- ・単純に地元である伊那市が好きだから。
- ・もともと教育に関心があり、学校の中だけではなく「地域でも学ぶ」ことが必要だと実感して。
- ・高校生だからこそその視点や意見を伝えることで、学生もまちに出て地域が賑やかになるような環境を作りたい。
- ・ITのライトニングトーク
- ・塩尻市の哲学トーク
- ・市民活動
- ・まちの景観講演会

## 2 これからも残したい取組・活動・イベント・思い出の場所はどんなもの？

- ・二十四節気、季節に合わせた文化・暮らし
- ・伊那まつり
- ・小学校
- ・大さん橋（横浜港）
- ・松本市上土町…学生が常に代わる代わる関わっていて、住民が見守ってくれる環境もあって、卒業後頻繁に訪れる  
という関係性
- ・伊那北…小学生が上牧里山プロジェクトに関わり地域や住民と関わっている。小さい頃からなかなかできない体験ができる。
- ・地域の大人×学生の関わることができる機会（留学フェローシップ、HLABサマースクール、高校生を巻き込んだ  
イベント、17とりどり祭り、伊那市キャリアフェス）
- ・えんぱーく、フリースペース（塩尻市）

## 3 上記の取組やイベントに関わろうと思いたくなるにはどんな要素が必要か？

- ・楽しい
- ・次の仕事につながる
- ・仲間が増える
- ・学生が食いつくような取組
- ・きっかけさえあればリピートにつながる
- ・忙しい学生に対して来てもらえるような情報発信をする。（学生が絶対に見るSNS等を有効活用する。）伊那市の  
魅力に気づいていない学生が多い。
- ・ハードルが低い。
- ・見守るスタンス（期待しすぎない）
- ・関わり続けていいという雰囲気
- ・興味本位
- ・無料駐車場
- ・熱意ある人

# 次世代のまちづくりへの関わりって？ 対話の記録

## <現状>

- ・地域の伝統行事が細々になってきた。子どもの減少が原因
- ・上伊那農業高校生は運賃が高いためバスに乗らない。
- ・飯田線は昼12時台のダイヤがない。本数が足りない。
- ・信州大学生がまちに下りてこない。交通手段がない。交通網の整備が必要。
- ・伊那まつりの花火が物足りない。復活してほしい。

## <ほしいモノ（ハード）>

- ・まちなかに自習室がいっぱいほしい。静かな勉強できる場所や話し合いながら勉強できる場所がほしい。
- ・伊那北駅の駅舎に集まれる場所があればいい。駅舎のあり方が大事。
- ・学生が気軽に行ける場所がほしい。

## <ほしいモノ（ソフト）>

- ・飯田線に快速電車を走らせてほしい。
- ・鉄道の駅を中心にバスやレンタサイクルなどの移動手段があると良い。
- ・伊那北駅と伊那市駅間でシェアサイクルがあれば人の流れができる。それに合わせた自転車、歩行者が安全に通れる車があまり通らない道路整備が必要
- ・シェアサイクルステーションの候補地として、文化エリアと商業エリアをつなぐルート、信州大学、伊那北駅、高遠の3エリアが候補となるのではないか。
- ・塩尻市で自動運転バスを走らせている。伊那市でも運行したらどうか。
- ・駒ヶ根市では「くらすわの森」へつなぐバスを運行している。観光地を結ぶ公共交通がほしい
- ・高校生は時間がない。ほしい情報が自然と入ってくる仕組み。

## <残したいモノ・コト>

- ・高尾神社　・伊那まつり　・上牧里山プロジェクト　・小学校時代の体験
- ・郊外の地域の活性化につながる取り組みを残したい。

## 次世代のまちづくりへの関わりって？ 対話の記録

### <想い>

- ・学生もいる、信州大学もある、学園都市にならないか。学生が集まるまちにしたい。
- ・住み慣れた伊那市に住み続けたい。
- ・高校生主催のイベント「いなチカ！」を立ち上げた。地域の大人と関わることができた。

### <話を聴いてみたい講師>

- ・「カフェあげつち」（松本）を運営する地域のまちづくり協議会、地域住民の居場所づくり、松本大学のフィールドワークで実践
- ・信州大学農学部 山岳圏森林・環境共生学コース 造園学研究室 上原 三知教授、ランドスケープ、歩く導線

## 次世代のまちづくりへの関わりって？ ラップアップ記録

- ・次世代を考える前に、われわれがどういう体験をしてきて、どういった場所、風景、思い出を残したいかという話から始めた。
- ・夜過ごしたバーでの出会いや寄り道など予定調和でないところが良かったが、それは現代の課題の裏返しではないかという話が出た。
- ・次世代の話をしていると、交通や歩きたいまちの話、学習室の空き情報がわかるプラットフォームの話が出て、次世代の話は、まちなかの交通・ウォーカブルの話や情報の手に入れ方といったところにつながることがわかった。
- ・次世代が気持ちよく過ごせるまちにつながる要素として、地域に持続的に次世代が関わりなくなるという時間軸、次世代が過ごしたくなる場づくり、場と場をつなぐモビリティといったことが挙げられた。

### <話を聴いてみたい講師>

お名前	所属	備考
白戸洋教授	松本大学総合 経営学部 観光ホスピタリティ学科	地域づくりの研究をされている。
城田徹央助教授	信州大学 農学部 地域協創特別コース 造林学研究室	
どんな方	アイデア・所属	
信州大学農学部のOB、OG	卒業後伊那市に定住された方が今どのようなお仕事をされているのかを聞く座談会を開催してはどうか	
先進地域の取組の担当者	辰野町まちづくり、松本市シェアサイクル、富山市トラム電車、長野市「ながの若者スクエア『ふらっと』」、上田電鉄	
まちなかで場づくりをしている方	いなまちBASE、古民家Cafe Sekai no Monogatari佐野さん、赤い部屋鈴木さん、伊那市地域おこし協力隊OBでバーを経営されている方	

## 会場の様子



## 会場の様子



## 会場の様子



## 会場の様子



## 参加者アンケート

### Q. 「作戦会議」の感想、印象に残った話

#### <歩きたくなるまちってどんなまち?>

##### (感想)

- ・歩きたくなるまちについて、民間の方と話す機会はあまりなかったのでとても勉強になった。
- ・ソフトとハードでバランスよく取り組んでいく必要があると感じた。
- ・「歩きたくなる」は難しかった。その景色が分かっても「じゃあどうすれば?」という点で実現のハードルが上がる。
- ・管理・運営を市ではなく民間で行えると良いと思った。
- ・やりたいことはそれぞれあっても、実行の段階になると様々な要因があり担い手が少ないのだと思う。

##### (印象に残った話)

- ・「開かれた空間づくり」というワード
- ・裏道や本道を定期的に歩行者に開放すること
- ・公園にネーミングライツを与えて民間管理とすること
- ・次世代の話をしていると、ウォーカブルや情報発信の話になる。

#### <情報があつまるまちってどんなまち?>

##### (感想)

- ・観光と市民生活に区別せずに情報を得られるとよい。
- ・それぞれの生活スタイルによって欲しい情報が違うが、情報がまとまっている必要性は感じた。
- ・スキルを持っている人のリストがあると使えるかもしれない。
- ・一見無駄と思われる情報であっても市のインターネットに公開していただきたい。
- ・各地にコンビニ併設の施設はあるが、情報の拠点を目的にコンビニ+aを検討してもいいのではないか。
- ・伊那市の情報が集まる場所が少ないのでないか。
- ・伊那市の情報は、紙で回覧されているイベントなどが多い。各地区で回覧されている内容をもっと公表してもよいのではないか。

##### (印象に残った話)

- ・観光地化しない良さ

## 参加者アンケート

- ・移住者（竜西地区の方）のLINEグループが立ち上がり、1年前は10人くらいだった参加者が現在120人になっている。グループ参加者は必要と思われる情報をUPしている。
- ・富山大学で学生の集まるところが企業の試験場になつたりする。
- ・同じ市内でも地区ごとの回覧板に「ある情報」、「ない情報」がある。
- ・小さな農地で耕作してみたが、農地の情報を得るための敷居が高い。
- ・コンビニで情報を取得できるとよい。コンビニは入りやすい。
- ・移住者が求めている情報が手に入りにくい。
- ・伊那市のHPでは伊那市のイベントなど一部しか情報がない。すべてを掲載してほしい。

### <次世代のまちづくりへの関わりって？>

#### (感想)

- ・参加者が積極的に発言していてよかったです。
- ・伊那市だけでなく自身が体験した他都市の取組等の話も聞けてよかったです。
- ・年代がばらばらで多様な意見がありよかったです。

#### (印象に残った話)

- ・カフェあげつち（松本市上土町）の例
- ・第3の居場所（お金の心配のない所）→電車待ちや空き時間の場所の少なさ。
- ・高校生のコミュニティースペース、自習室が足りない。
- ・信州大学近くにあるコミュニティースペースの信州大学生の活用率の少なさ
- ・人と人のつながり

### Q.まちづくりに関してあなたが「やりたい」こと

- ・セントラルパークの整備
- ・歩車分離の歩道は必要と感じる。加えて、屋外の憩える、座る、コーヒーの飲める日陰の提供
- ・今のまちの雰囲気がどうなのか、どこに魅力を感じるのか、実際に自分で歩いてみたい
- ・リノベーションで成功した拠点となりそうな店舗の発掘
- ・公共施設インフラの運営主体を作っていく。

## 参加者アンケート

- ・伊那市駅や伊那北駅の駅前の活性化
- ・情報収集・発信プラットフォーム（ホームページのような情報サイト）の制作、運用
- ・子供がおじいちゃん、おばあちゃんのような世代の人達と家庭的にご飯を囲むような、地域で家族的な交流ができるような関係づくり
- ・子供に学力を付ける為の「受け皿」や人材登録
- ・学生のやりたいことを人脈的・経済的に支援できる場・環境づくり
- ・中高生など若い世代が寄り道できるスペース・居場所づくり
- ・自習室などの情報サイト
- ・現在おこなっているFacebookの伊那市関連のページでの情報提供の継続

### Q. 参加してみたい「対話」テーマやまちづくりの取組

- ・実際に伊那のまちで開業してゐる人は、これが持続可能なのか、将来をどう考えているのか。
- ・空き店舗対策
- ・公園づくり
- ・中心市街地再開発
- ・道路整備
- ・子供や若者・学生が楽しいイナになるような取組
- ・伊那市駅周辺の住民の方が考える「まちづくり」活性化
- ・高校生（伊那北高校・上伊那農業高校）の「たまり場」

### Q. ご意見、ご感想

- ・協議会の発足から約一年となる。振り返りやまとめの機会を設けてはどうか。
- ・この先の動かし方について楽しみである。
- ・長野県下では多くの市でまちおこし的な事業が行われてゐる。中には数年単位の市長肝いり事業もある。うまくいっていいる市は市民団体を上手に取り込んでいる。伊那市も市民団体を上手く活用するような方向で頑張ってほしい。

## メンバーコメント

### ＜黒河内貴氏＞

- ・今回は、講師を呼んでの講演などがなく、3つのグループに分かれてのディスカッションのため、参加人数がどのくらいになるかが心配されたが、結果としては、まずまずの人数が集まった。他のWG主催のものも含め、これまでの「対話・つながり・実現の場」を継続してきたことにより、「新しいまちづくりの推進」に積極的にかかわろうとする市民が少しずつ増えてきていると感じた。
- ・3グループでそれぞれに、あるべき姿、伊那市できること、そのために話を聞いてみたい人について多くの意見がでた。まちづくりに関して対話の場で発言したことを市として受け止めてくれているという信頼が芽生えつつあるので、講師の手配などきちんと実現していきたい。
- ・まちなかエリア高度化WGの特徴のひとつでもあるが、伊那北駅周辺再生WGの取り組みとも重なる部分がかなりあるので、連携をしていく必要を感じる。また伊那市として取り組む計画のある都市整備に関する事業とも、緊密に連携してやっていきたい。

### ＜志知貴文氏＞

- ・参加者と話をしている中で、豊かに安心して暮らしていくために、やはり必要な情報を得たいとみなさん考えていることがわかった。また、自らが発信者になっていくことについてもそれほどハードルを感じていないのではないかということわかった。
- ・これから新しいまちづくりにおいて、これまで商業（お金）ベースでの集積地として中心市街地活性化が語られることが多かったが、あらためて、この地域で暮らすすべての人の考え方や営みから生み出される情報資産の集積地として、まちづくりを考えることの有効性も感じた。バーチャルでもリアルでも、誰にとっても必要な情報がまちなかに行けば得られる、発信できる、情報を活用して繋がり、新たなことが始まる、このような場作りが進められたらよいと感じた。

## メンバーコメント

### <政金裕太氏>

- ・次世代のまちづくりの関わりを話している中で、情報の発信と取得やモビリティの話題が出てきたので、これまでやってきたワークショップのみなさんの意見のまとめ方として3つの「問い合わせ」はあながち間違いではなかったと安心した。
- ・これからは具体的に事業を起こしたい人をどう支援できるのかというフェーズだと思うので、具体的なアイデアを出していた方に積極的に働きかけて伴走できるような体制を作れたらよいかと思う。

### <企画政策課有賀慎課長補佐>

- ・歩きやすさには車を締め出し、安心感を確保することが必要で、あらかじめ決まった時間に定期的に歩行者天国をやってはどうかとの意見が出た。
- ・今回の対話の結果から、講師を招いて話を聴き、小さなことでも何でもよいので1つでもかたちとなればよいと思う。

### <企画政策課村田和也新産業技術推進係長>

- ・参加者が集まっていただけれど心配であったが、幅広い年代からさまざまに「やりたい」ことがある方に参加いただけてありがたかった。
- ・「情報が集まる場所・方法は？」グループの対話から、市や地域の情報が想像以上に市民の皆さんに届いていないことや、発信したり知りたい情報は「お惣菜のシェア」や「みんなで揚げ物しませんか」、「旬の野菜のおいしい食べ方」、自分の持っている知識を誰かに伝えたいといった割と身近な内容であることを知れた。
- ・広く効果的な情報発信とともに、特定カテゴリーのコミュニティ内での誰でも情報を発信も受信もできる仕組みも大切であり、その仕組みに必要なことはちょうどよい規模感と安心感ではないかと感じた。
- ・今回の「対話・つながり・実現の場」が、参加者の「やりたい」実現のきっかけになるよう今後につなげていきたい。